

国語 第4学年 気持ちの変化に着目して読み、感想を書こう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版の「ごんぎつね」とコラム「言葉を分類しよう」を合わせた全12時間の案。旧版の国立教育政策研究所事例を参考にした9時間案から、語句分類、人物の関係の再読、感想の推敲を追加した。東京書籍版は別途全13時間で用意している。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、ごんと兵十それぞれの気持ちが、場面の移り変わりの中でどこで、何をきっかけに、どう変わったのかを、行動・会話・情景の叙述を挙げて説明できる。そのうえで単元の問い「ごんと兵十の心は通じ合ったといえるか」に、自分の考えと根拠の叙述、前の場面との結び付けを一つの文章にまとめ、友達の考えと比べて感じ方の違いに気付く。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕の目標 (2)	(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。
〔第3学年及び第4学年〕の目標 (3)	(3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(1)オ	オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(1)ク	ク 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(1)イ	イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(1)エ	エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像すること。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(1)オ	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(1)カ	カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(2)イ	イ 詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。
〔第3学年及び第4学年〕A話すこと・聞くこと(1)オ	オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(3)オ	オ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。

学習指導要領の項目	原文
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(3)	(3) 第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。なお、その際、第1章総則の第2の3の(2)のウの(イ)に掲げる指導を行う場合には、当該指導のねらいを明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(6)	(6) 第2の第1学年及び第2学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のエ、第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のオ及び各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」に関する指導については、読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに、他教科等の学習における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(9)	(9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(10)	(10) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、国語科の特質に応じて適切な指導をすること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)	(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(1)	(1) 教材は、第2の各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし、児童の発達段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(2)カ	カ 生命を尊重し、他人を思いやる心を育てるのに役立つこと。

単元の目標

様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使う（(1)オ）。登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、文章を読んで理解したことに基いて感想や考えをもつことができる（C(1)エ・オ）。読んで考えたことを伝え合い、感じ方に違いがあることに気付き、言葉がもつよさに気付いて、幅広く読書をし、思いや考えを伝え合おうとする（C(1)カ・学年の目標(3)）。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句を増やし、性質や役割で分類して、文章の中で使っている。((1)オ) ②文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。((1)ク)	①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) ③「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C(1)カ)	①進んで、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめ、伝え合おうとしている。

単元の流れ

光村図書出版『国語（令和6年度版）』年間指導計画による全12時間（知・技①、読①）。各時への活動の配分と本時の選定は、本案の提案である。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○範読を聞き、場面ごとに「誰が、何をした」を一文で書く。 ○初発の感想（強く残った所・不思議に思った所）を書く。	態①（観察）
	2	○意味を知らない語句を辞書で調べ、語句カード（様子・行動・気持ち・性格）に書く。 ○初発の感想を読み合い、単元の問い「ごんと兵十の心は通じ合ったといえるか」と進め方を決める。	知①（語句カード・ノート）
	3	○物語から集めた様子・行動・気持ち・性格の語句を分類し、近い意味の違いを確かめて、自分の説明文で使う。	知①（語句の分類と使用）
第2次	4	○場面1（ごんがいたずらをする）を読み、ごんの行動に線を引いて「気持ちの変化の表」に書く。	知②（音読の観察）
	5	○場面2（兵十の母親の葬列をごんが見る）を読み、ごんの気持ちの変化を表に書く。	
	6	○場面3（ごんがつぐないを始める）を読み、前の場面と結び付けてごんの気持ちを想像する。	思①（ノート）
	7	○場面4・5（ごんが兵十と加助の後をついていき、二人の話を聞く）を読み、ごんと兵十の気持ちを表に書く。	
	8	○前半からのごんの行動と兵十が知っていることを読み合わせ、食い違いを表に整理する。	思①（人物ごとの行動と気持ちの記録）
	9 （本時）	○場面6を読み、ごんと兵十の気持ちがどこでどう変わったかを、前の場面と結び付けて想像し、自分の言葉で書く。	思①（ノート）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第3次	10～ 11	○表とノートを見返し、単元の問いへの考えを「考え→根拠の叙述→場面の結び付け→初発の感想からの変化」の順で文章に書く。	思②（文章） 態①（文章の見直し）
	12	○グループで文章を読み合い、同じ所と違う所に付箋を貼って全体で共有する。 ○学習を振り返る。新美南吉の他の作品を読む並行読書を紹介する。	思③（付箋・発言） 態①（振り返り）



本時の案

本時の目標：最後の場面のごんと兵十の気持ちを、行動の叙述と前の場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、二人の気持ちの変化を自分の言葉で書ける。(C(1)エ)

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前時までの「気持ちの変化の表」で、場面5までのごんと兵十の気持ちを確かめる。 2 本時の問いをつかむ。 ○「最後の場面で、二人の気持ちはどうなるでしょう」 【めあて】最後の場面で、兵十とごんの気持ちは、どこで、どう変わったかを考えよう。 3 先生の範読を聞く。 〈予想される児童の反応〉 ・ごんはつぐないを続けていて、気付いてほしいと思っている。 ・兵十はまだ気付いていなくて、ごんをいたずらをしたきつねだと思っている。	・前時までの表を黒板に貼り、場面6の欄は空けておく。 ・範読の間、兵十の行動が分かる所に指を置いて聞かせる。
展開 (分)	4 一人で読み、兵十の行動に青線、ごんの行動に赤線を引く。 ○「兵十は最後の場面で、何を見て、何をしましたか。順番に言いましょう」 5 兵十の気持ちが変わった所を考える。 ○「兵十の気持ちは、どこで変わりましたか。前と後でどう違いますか」 6 ごんの気持ちを、前の場面と結び付けて考える。 ○「ごんは最後にどんな気持ちだったと思いますか。前のどの場面と結び付けて考えましたか」 7 ペアで、考えと根拠の叙述を言い合う。全体で発表し、違いが出た所を表に書き足す。 〈予想される児童の反応〉 ・家に入ったごんを見つけて撃つ。 ・家の中の物に気付く。 ・ごんに声をかける。 ・持っていた物を落とす。 ・撃つ前は、憎い、腹が立つ。 ・気付いた後は、しまった、悪かった。 ・やっと気付いてもらえてうれしい。 ・撃たれて悲しい、くやしい。 ・うれしいと悲しいの両方。 ・場面3や5で、つぐないを続けたのに報われなと感じていたから。	・気持ちを問う前に、必ず行動の叙述を確かめる順にする。 ・言えない子には、青線の行動を順に指でたどらせ、「この時の気持ちは」と一つずつ聞く。 ・「かわいそう」など一語で終わる発言には「どの叙述から」と返す。 ・場面3や5のごんの行動と結び付ける子が出たら、表の欄を指して全体に広げる。 ・読むのが苦手な子には場面6だけの拡大本文（ルビ付き）を渡し、線を引く叙述を先生が一か所示す。 ・早く終わった子には「語り手はこの場面では誰の側から語っているか」を考えさせる。子どもから出なければ先生が示す。 ・台詞や叙述の引用は、使う教科書から先生が書き入れる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ (分)	8 二人の気持ちの変化をノートに書く。 (型)「兵十の気持ちは…から…に変わった。それは…という行動から分かる。ごんは…。前の場面の…と結び付けると…」 9 二人が読み上げ、違いを確かめる。 10 振り返りを書く。	・振り返りは「叙述から分かったこと」と「友達の考えを聞いて変わったこと・変わらなかったこと」の二つで書かせる。 ・次時は単元の問いに答える文章を書くことを伝える。 ・「いたずらはいけない」などの教訓にまとめない。 ◎思① 登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(ノート)

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に日付・題名・本時の問い。その左に前時までの気持ちの変化の表（場面1～6を右から左へ並べ、ごんと兵十の二段に分ける。場面6の欄は空けておく）。中央に場面6の兵十の行動を時間の順に右から左へ矢印でつなぎ、その下に気持ちの変化（憎い→気付く→後悔）。その左にごんの行動と気持ち。左側に子どもの考え（うれしい・悲しい・両方）と根拠の叙述の番号。左端にまとめの文の型と振り返りの観点二つ。

つまずきやすい所と手当て

つまずきやすい所は五つ。一つ目、気持ちを「かわいそう」「うれしい」の一語で済ませる。手当ては、行動・会話・情景の叙述を先に確かめてから気持ちを言う順を、単元の最初から崩さないこと（C(1)イ）。二つ目、前半はごんの側から、最後の場面は兵十の側から語られるため、兵十の気持ちをごんの気持ちと混ぜて書く。手当ては、表の一番上の行に「語り手は誰の側にいるか」を場面ごとに書かせること。三つ目、その場面だけで気持ちを考え、前の場面と結び付けられない。手当ては、気持ちの変化の表を単元の最初から掲示し続け、本時で必ず前の場面の欄を指して話すこと（C(1)エ）。四つ目、昔の暮らしや道具を表す語句、昔の言い方が分からず、場面の様子が思い浮かばない。手当ては、語句カードと辞書、必要なら図や写真で確かめること（(1)オ、第3の2(1)イ）。五つ目、葬列の場面の花や月夜などの情景の叙述を読み飛ばし、気持ちと結び付けられない。手当ては、「情景の表」（場面ごとの情景の叙述と、その時のごん・兵十の気持ち）を作り、同じ景色が気持ちによって違って見えることを確かめること（C(1)エの「情景」）。

プリントの案

気持ちの変化の表（単元を通して使う）

横に場面1～6、縦に「ごん」「兵十」「語り手は誰の側か」の3行。ごんと兵十の欄は上段に「行動の叙述（書き写す）」、下段に「気持ち」。場面の間に矢印を印刷し、変化のきっかけを書き込む。C(1)エを表の形にしたもの。

本時のワークシート（場面6）

上に兵十の行動を順に書く枠を四つ並べて矢印でつなぎ、その下に気持ちの枠。中ほどにごんの行動と気持ちの枠。下に「兵十の気持ちは…から…に変わった。それは…という行動から分かる。ごんは…。前の場面の…と結び付けると…」の型。本文は先生が教科書から書き入れるので印刷しない。

情景の表

横に場面1～6、縦に「情景の叙述（書き写す）」「その時のごんの気持ち」「その時の兵十の気持ち」の3行。葬列の場面の花や月夜が、誰の気持ちで、どう見えているかを確かめる。C(1)エの「情景」に合わせた。

語句カード（様子・行動・気持ち・性格）

一枚に、見付けた語句、どの場面にあったか、辞書で調べた意味、その語句を使った自分の一文。四つの種類のどれかに印を付ける。〔知識及び技能〕(1)オに合わせた。

単元の問いの作文用紙と振り返りカード

作文用紙は「自分の考え」「根拠になる叙述（場面の番号と行動）」「前の場面との結び付け」「初発の感想から変わったこと」の四つの枠。振り返りカードは「叙述から分かったこと」「友達の考えを聞いて変わったこと・変わらなかったこと」の二つの枠。C(1)オ・カに合わせた。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年）。評価規準の文末と3観点の形、第3学年及び第4学年C読むことの評価規準（例）（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／同 参考資料の一覧ページ（国立教育政策研究所）（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>）／学校教育法施行規則 別表第一（国語の標準授業時数 第3学年245・第4学年245）。e-Gov法令検索（<https://laws.e-gov.go.jp/law/322M40000080011>）／三重県で公開されている小学校の学習指導案の形（見出しの順と表の列）に合わせた。中身は写していない。例：三重県総合教育センター掲載の実践事例集（令和7年度）（https://www.mpec.jp/wp-content/uploads/2026/03/r7_ICT_English_case_studies.pdf）／東京都教職員研修センター 学習指導案書式例（令和5年）。評価規準3観点の並びだけ使った（<https://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.lg.jp/>）／国立教育政策研究所 参考資料（上記PDF）第3編 事例4「読んで感じたことや考えたことをまとめよう（ごんぎつね）」第4学年・全9時間。時数の出典と評価規準の形に使った。指導計画の中身は写していない（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／光村図書出版 年間指導計画。現在の単元範囲・時数・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（4年）「4年下巻」5行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/3db56761-ee29-4e40-81b8-d9480c60cd85/368）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

